

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【経営基本情報】

○団体の基本情報

所在地	鈴鹿市桜島町一丁目20番地		
HPアドレス	http://www.isetetu.co.jp		
電話番号	059-383-2112	FAX番号	059-383-2112
設立年月日	昭和61年10月1日		
代表者	代表取締役社長 猪俣 光博	県所管部等	政策部
県出資額	144,000,000 円	県出資割合	40.0%
団体の目的	①地方鉄道事業②他の鉄道事業者からの委託業務の請負業③道路運送法に基づく自動車運送業④旅行業法に基づく旅行業⑤貸自動車業及び駐車場の経営⑥広告宣伝業⑦損害保険代理業⑧食堂喫茶店の経営並びに飲食料品及び日用雑貨品小売業⑨前各号に付帯関連する一切の事業		

○主な事業内容

[事業規模(売上高)]

(単位:千円)

事業名	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
(1) 鉄道事業等	615,534	592,474	583,658	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	
(2)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(3)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(4) (1)~(3)以外の事業				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全事業合計	615,534	592,474	583,658	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

[事業の概要]

- (1) 旅客輸送
- (2)
- (3)
- (4)

○財務概況

		(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
損益計算書	売上高	(a)	615,534	592,474	583,658
	売上原価	(b)	471,409	466,803	470,494
	販売費・一般管理費	(c)	110,520	107,017	111,642
	営業損益	(d) = (a) - (b) - (c)	33,605	18,654	1,522
	経常損益(営業損益+営業外収益-営業外費用)		31,331	16,636	△ 8
	当期純損益(経常損益+特別利益-特別損失-法人税等)		17,879	9,971	△ 358
貸借対照表	資産		601,609	635,781	564,401
	負債	(e)	137,656	161,856	90,834
	資本金(基本金)	(f)	360,000	360,000	360,000
	剰余金(累積欠損金)等	(g)	103,953	113,925	113,567
	純資産	(h) = (f) + (g)	463,953	473,925	473,567
	負債・純資産合計	(i) = (e) + (h)	601,609	635,781	564,401

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

○財務に関する主な指標

指標	計算式	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
安定性	自己資本比率	純資産／(負債＋純資産)	77.1%	74.5%	83.9%
	流動比率	流動資産／流動負債	312.3%	240.3%	294.9%
	借入金依存率	借入金残高／(負債＋純資産)	7.6%	5.4%	4.0%
収益性	売上高営業利益率	営業利益／売上高	5.5%	3.1%	0.3%
	総資産経常利益率	経常利益／資産合計	5.2%	2.6%	0.0%
効率性	人件費比率	人件費／売上高	32.2%	32.4%	33.3%

○役職員の状況

(※派遣職員は含まない)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
常勤役員	2人	2人	2人	H22平均年齢*: 66.0 歳 H22平均年収*: 8,685 千円
うち、県退職者	0人	0人	0人	
うち、県派遣	0人	0人	0人	
常勤正規職員	31人	29人	30人	H22平均年齢*: 59.4 歳 H22平均年収*: 4,921 千円
うち、県退職者	0人	0人	0人	
うち、県派遣	0人	0人	0人	
その他職員	4人	4人	4人	パート社員
うち、県退職者	0人	0人	0人	

○県からの財政的支援など

	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
委託料		0	0	0
補助金・助成金		0	18,887	27,952
負担金		0	0	0
借入金(期中に借り入れた額の合計)		0	0	0
その他県支出金(追加出資額等)		0	0	0
計		0	18,887	27,952
借入金残高(期末残高)		0	0	0
債務保証額(期末残高)		0	0	0
損失補償限度額		0	0	0
損失補償契約に係る債務残高(期末残高)		0	0	0

○団体の目標達成状況等

●年次事業計画による達成目標

定性目標	平成22年度目標	①鉄道運転事故及び旅客の死傷事故の防止 ②車両の改良更新(ATS-PT新設、運転状況記録装置新設、防護無線バックアップ設備新設) ③通信ケーブル改良 ④要員の確保
	平成22年度実績	①無事故で完遂 ②計画通り2両完了、③計画通り完了 ④駅1名、運転士1名、工務1名採用(当期間中の退職者3名)
	平成23年度目標	①鉄道運転事故及び旅客の死傷事故の防止 ②通信ケーブル改良 ③津駅構内ATS-PT化 ④F1輸送の無事故完遂

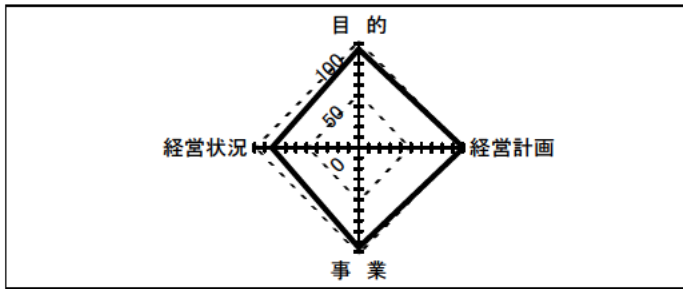
定量目標	指標	数値目標	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	輸送人員		1,619	千人	目標	1,662
		実績			1,599	1,575
収入		598,050	千円	目標	601,470	581,220
				実績	592,923	583,658
経費		623,480	千円	目標	596,120	583,720
				実績	576,287	584,070

●中長期計画による目標

①鉄道運転事故及び旅客死傷事故の無事故継続
②通信ケーブル改良(H20～23)
③車両の全般検査(H22～25)
④F1輸送の無事故完遂

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【団体自己評価結果】



	20年度		21年度		22年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	94	A	94	A	94	A
経営計画	100	A	100	A	100	A
事業	96	A	96	A	96	A
経営状況	94	A	94	A	83	B

A(90%~100%):良好な事象や傾向がみられる
C(30%~59%):改善を要する

B(60%~89%):やや良好な事象や傾向がみられる
D(0%~29%):大いに改善を要する

《団体自己評価表》

1. 目的に対する評価				比率	94	評価	A
1	団体の目的は現在でも社会的要請があるか	①	5	事業全体について成果は十分か		①	
2	事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか	①	6	県民に対し情報公開・情報提供しているか		①	
3	民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か	②	7	社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか		①	
4	県直営で行うよりもメリットがあるか	①	8	事業構成比率は目的からみて適正か		-	

2. 経営計画に対する評価				比率	100	評価	A
1	経営基本方針等は役職員に浸透しているか	①	5	年次事業計画と実績との差異を分析し改善しているか		①	
2	中長期経営計画を策定し、運用しているか	①	6	中長期経営計画と実績との差異を分析し計画を見直しているか		①	
3	外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画を策定しているか	①	7	計画目標達成のため人材育成・能力開発を行っているか		①	
4	中長期経営計画、年次事業計画は県の方向性と合致しているか	①					

3. 事業に対する評価				比率	96	評価	A
1	事業毎に目標を設定しているか	①	6	危機管理体制は十分に整備されているか		①	
2	目標の達成状況を評価・活用しているか	①	7	組織体制は十分に整備されているか		①	
3	顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか	②	8	管理費比率及び人件費比率は適正か		①	
4	顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か	①	9	事業毎に損益を分析し活用しているか		①	
5	内部統制は十分に実施されているか	①					

4. 経営状況に対する評価				比率	83	評価	B
1	2期連続で損益がマイナスになっていないか	③	6	開発用不動産等の含み損益を把握しているか		-	
2	累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか	①	7	債権管理は十分か		①	
3	財務基盤についての指標は適正か	①	8	借入金は返済可能か		②	
4	収益における県への依存度は適正か	①	9	基本財産や運用財産を適正に運用しているか		-	
5	総資産当期経常増減率は適正か	①	10	必要な額の特定資産が設定されているか		-	

※ 回答①=5点、②=3点、③=1点、④=0点とし各部門ごとに比率を算出しています。
比率=(合計点)/(総回答数×5点)×100

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

《団体自己評価コメント》

22年度コメント	
目 的	当社は、昭和61年10月に地域の交通利便性確保及び県内地域間の交流拡大・連携強化により県全体の更なる発展を期す事を目的に第三セクターとして設立された。平成22年度の輸送量は、昭和62年度比、普通列車で2.7倍、快速列車の体系整備に伴い、全体でも2.9倍と、設立目的を十分果たしている。
経営計画	当社は、交通事業者の原点である「輸送の安全確保」をメインに「経営基盤の強化」「増収対策の推進」を計画の柱として取組んできた。平成22年度も重大事故の発生は無く、車両設備の改良(2両)、通信ケーブルの改良等の安全施策も全て計画通り進捗した。また、厳しい経営環境ではあったが、F1輸送を含めJR東海との連携施策も定着している。
事 業	平成20年度より続く景気の低迷、高速料金の値下げと無料化社会実験の影響により、特に「特急南紀」客が減少した。更に東日本大震災の影響で、3月分旅客収入が対前年で約650万円の減少となったこともあり、利用客は対前年度98.5%、旅客収入は98.7%と落ち込んだ。
経営状況	輸送量の減少に伴い、旅客収入は、前年度比7,049千円の減収となった。経費では、減価償却費の増加、軽油価格高騰により増加し、経常損益は8千円の損失となったが、厳しい経営環境の中、ほぼ収支均衡の決算であった。

総括コメント	重大な運転事故やインシデントの発生は無く、経営の根幹である「安全輸送」を確保することができた。また、厳しい事業環境の中、収入は対目標100%を確保したものの、経費は減価償却費の増、軽油価格高騰等により350千円増加し、経常損益は8千円の損失となったが、ほぼ収支均衡の決算を計上できた。中長期目標である、車両設備の改良はH22年度で完了し、通信ケーブルの改良等の安全投資についても計画通り推進中である。
--------	--

【知事等の審査及び評価結果】

- {

 + : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)

 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)

 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価
 }

	20年度	21年度	22年度	22年度コメント
目 的				伊勢鉄道は、JR関西本線河原田駅と紀勢本線津駅を結ぶ北・中勢地域の都市交通線としてまた、伊勢志摩地域及び東紀州地域の観光客輸送の重要な路線であり、その設立目的は、十分に果たしている。
経営計画				平成22年度も事故や、インシデント(事故につながる恐れがある事態)の発生は無く、「輸送の安全確保」を中心に「経営基盤の強化」、「輸送量・輸送力の増強」等の具体的な施策を遂行することができている。
事 業				長引く景気の低迷、高速道路無料化社会実験の影響、さらに3月期の東日本大震災の影響から輸送人員で前年比98.5%、旅客収入で98.7%と前年を下回った。その中で、「快速」は、輸送人員で99.8%、旅客収入で102.1%とほぼ前年度数値を確保することができている。
経営状況				昨年度まで4年間経常利益を確保していた状況と一変して、輸送量の減少に伴う減収、費用面において設備の改良による減価償却費の増加や軽油価格高騰により厳しい経営状況となった。今後も、より一層の各種経費の節減等経営努力が必要とされている。

《知事等の総括コメント》

<p>平成22年度達成目標の《定性目標》では、鉄道事業者の使命である「輸送の安全確保」のため、鉄道事故の防止や安全設備の整備や改良を目標どおり遂行している。《定量目標》では、輸送人員が若干下回ったものの目標数値はほぼ達成している。また、中長期計画による目標についても計画どおり進められている。</p> <p>平成23年3月のダイヤ改正において、平成25年の伊勢神宮式年遷宮行事への輸送力増強を目的とした、「快速みえ」全列車4両化と平日朝1往復増便施策を実施したところであり、今後とも旅客収入の中心である「快速みえ」の利用客増加のために努力をしていくとともに、経費削減とJR東海との連携強化を図っていく必要がある。</p>
--